

古坊中の歴史

古坊中は 12 世紀後半から 16 世紀にかけて栄えました。16 世紀後期、敵対関係にあった大友氏と島津氏が九州の支配権をめぐる争いと、ここでの修行僧や山伏の生活は妨げられました。16 世紀後半には、彼らのほとんどが山を去りました。

1588 年、戦国武将・豊臣秀吉は、島津氏討伐と九州平定の褒美として、加藤清正（1562-1611）に肥後国（現在の熊本県）の支配権を与えました。1599 年、清正は秀吉から許可を得て、阿蘇の町の坊中を復興し、以前そこに住んでいた僧侶や修行僧を呼び戻しました。山頂にあった古坊中（「古い僧の集まり」の意）と区別するために、この新たな坊中は麓坊中（「山の麓にある僧の集まり」の意）と名付けられました。清正の子が將軍の不興を買い、1632 年に流刑に処せられた後も、肥後国の領主となった細川家は麓坊中を庇護し続けました。